

黙示録 21 章 22 節-22 章 6 節 スタディーガイド

★ 黙示録 21 章 22 節-24 節

私は、この都の中に神殿を見なかった。それは、万物の支配者である、神であられる主と、小羊とが都の神殿だからである。都には、これを照らす太陽も月もない。というのは、神の栄光が都を照らし、小羊が都のあかりだからである。諸国の民が、都の光によって歩み、地の王たちはその栄光を携えて都に来る。

22 節「私は、この都の中に神殿を見なかった。それは、万物の支配者である、神であられる主と、小羊とが都の神殿だからである。」

黙示録 11 章 19 節でヨハネは天国に上げられた時に、神殿を見えています。新しいエルサレムには神殿がありません。

サタンが出入りしていた天国には、神殿があったのです。神様のご臨在なさる所を、聖別するためでした。しかし、新しいエルサレムでは、父なる神様とイエス様ご自身が神殿で、神殿は不要です。

23 節「都には、これを照らす太陽も月もない。というのは、神の栄光が都を照らし、小羊が都のあかりだからである。」

太陽と月が地球から無くなったわけではないと思われませんが、シャカイナグローリーの栄光によって、被造物の光は必要がなくなりました。

最初の罪を犯したサタンによって闇に包まれましたが、一部が清められてエデンの園が造られました。しかし、完全ではなかったので海が残され、太陽の光が注がれる「昼間」だけでなく、闇の一部が残されて、「夜」と名付けられました。

新しいエルサレムでは、十字架の血潮によって完全に清められ、もはや太陽も月も必要がなく、シャカイナグローリーに包まれているため、電気もランプも不要です。

24 節「諸国の民が、都の光によって歩み、地の王たちはその栄光を携えて都に来る。」

新しいエルサレムの外に、諸国の民が住んでいるわけではありません。

神様のアブラハムとの契約はとこしえに続きます。「諸国の民」は、ギリシャ語では「異邦人」です。

イスラエルの民と異邦人が一緒に過ごしていますが、アブラハムの子孫は永久にアブラハムの子孫です。異邦人は彼らを通して祝福されました。

創世記 12 章 3 節にこう書かれています。「あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう。地上のすべての民族は、あなたによって祝福される。」

すべての者が、アブラハムの子孫としてお生まれになったイエス様によってこの祝福を受けるのです。

★ 黙示録 21 章 25 節-27 節

都の門は一日中決して閉じることがない。そこには夜がないからである。こうして、人々は諸国の民の栄光と誉れとを、そこに携えて来る。しかし、すべて汚れた者や、憎むべきことと偽りとを行う者は、決して都に入れない。小羊のいのちの書に名が書いてある者だけが、入ることができる。

25 節 「都の門は一日中決して閉じることがない。そこには夜がないからである。」
夜が無く、罪も、罪を犯す者もないので門を閉じる必要がないのです。

26 節 「こうして、人々は諸国の民の栄光と誉れとを、そこに携えて来る。」
栄光と誉れを主に携えてきた者たちのみ、新しいエルサレムに入ります。

27 節 「しかし、すべて汚れた者や、憎むべきことと偽りとを行う者は、決して都に入れない。小羊のいのちの書に名が書いてある者だけが、入ることができる。」
罪人たち、火の池に入った者たちは、とこしえに神様と離れてしまいました。
この人々の名は、小羊の命の書には書かれていません。

エペソ人への手紙 1 章 4 節と 5 節、「……神は私たちが世界の基の置かれる前から彼にあって選び、御前で聖く、傷のない者にしようとされました。神は、みむねとみこころのままに、私たちがイエス・キリストによってご自分の子にしようと、愛をもってあらかじめ定められました。」

神様は、愛をもってイエス・キリストを送ることを、世界の基が置かれる前からご計画なさいました。
神様が、誰が永遠の神の都に到着するのかをすでにご存じのゆえ、小羊の命の書に名を書き記されたのだと考えられます。

★ 黙示録 22 章 1 節-2 節

御使いはまた、私に水晶のように光るいのちの水の川を見せた。それは神と小羊との御座から出て、都の大通りの中央を流れていた。川の両岸には、いのちの木があって、十二種の実がなり、毎月、実ができた。また、その木の葉は諸国の民をいやした。

1 節-2 節「御使いはまた、私に水晶のように光るいのちの水の川を見せた。それは神と小羊との御座から出て、都の大通りの中央を流れていた。」

中央通りはガラスのような純金で、中央に水晶のように輝いている川が流れています。御座から流れ出ている命の水です。

2 節「川の兩岸には、いのちの木があって、十二種の実がなり、毎月、実ができた。また、その木の葉は諸国の民をいやした。」

エデンの園にあった木です。アダムとエバは罪を犯して、永遠の命を保ってくれる、命の木から実を食べることを禁じられました。

創世記 3 章 24 節「こうして、神は人を追放して、いのちの木への道を守るために、エデンの園の東に、ケルビムと輪を描いて回る炎の剣を置かれた。」

エデンの園から人間は追放されました。ケルビムが、神様と罪を犯した人間との仕切りとなっています。

同様に、荒野の幕屋で神様のご臨在が現れる至聖所の垂れ幕に、ケルビムの絵が織り込まれました。新しいエルサレムでは、神様と人間を仕切るものは何もありません。再び、命の木の所に戻ることができたのです。

兩岸にある命の木は、12 種類の実を毎月実らせませす。永遠の神の都に食物があることを表しています。

永遠の都では、時間が無いように思いますが、毎月と言っていますから、何らかのカレンダーがあります。

2 節「その木の葉は諸国の民をいやした。」

罪も呪いも無い世界で、病気はありません。

神学者の中には、この木の葉はリハビリのような力があり、人々が永遠にいつも聖く正しく神様に仕えることができる基となっているのだと考える人もいます。

★ 黙示録 22 章 3 節-5 節

もはや、のろわれるものは何もない。神と小羊との御座が都の中にあって、そのしもべたちは神に仕え、神の御顔を仰ぎ見る。また、彼らの額には神の名がついている。もはや夜がない。神である主が彼らを照らされるので、彼らにはともしびの光も太陽の光もいらない。彼らは永遠に王である。

3 節-4 節「もはや、のろわれるものは何もない。神と小羊との御座が都の中にあって、そのしもべたちは神に仕え、神の御顔を仰ぎ見る。」

すべての呪いが、完全に無くなります。神様と顔と顔を合わせ、仕えることができます。

5 節「もはや夜がない。神である主が彼らを照らされるので、彼らにはともしびの光も太陽

の光もいらない。」

「もはや夜がない」とは、もう罪は無いということです。夜があるゆえに光が必要でしたが、シャカイナグローリーによって光が輝いています。

★ 黙示録 22 章 6 節

御使いはまた私に、「これらのことばは、信ずべきものであり、真実なのです」と言った。預言者たちのたましいの神である主は、その御使いを遣わし、すぐに起こるべき事を、そのしもべたちに示そうとされたのである。

6 節「御使いはまた私に、『これらのことばは、信ずべきものであり、真実なのです』と言った。」

ヨハネがこれらのことを聞き、そして見たのです。黙示録に書かれているすべてが、信ずべき真実なのです。

◆MEMO◆



OMEGA MINISTRIES
OMEGA BIBLE STUDY